

完了報告書

日本財団 会長 笹川 陽平 殿

報告日付:2023年4月8日

事業ID:2022004288

事業名:京都府京都市における「子ども第三の居場所」(C)学習・生活支援モデルの運営(1年目)

団体名:一般社団法人merry attic

代表者名:代表理事 上田 馨一 印

TEL:048-229-1784

事業完了日:2023年3月31日

■契約時

事業費総額	:	9,440,000 円
自己負担額	:	20,000 円
助成金額	:	9,420,000 円

■箇所は【フォーム】収支計算書より自動転記

■事業完了時

事業費総額	:	9,718,403 円	収支計算書の黄のセルの値
自己負担額	:	298,403 円	収支計算書の緑のセルの値
助成金額	:	9,420,000 円	収支計算書の赤のセルの値。千円未満は切捨
助成金返還見込額	:	0 円	(収支計算書の青のセルの値)

1.事業内容

助成契約書記載の事業内容(予定)と、事業完了時の事業内容(実績)を対照可能とするため、助成契約書と一緒に綴じている「事業計画」の事業内容欄を転記した上、体裁を変えずに結果を記入してください。
なお、事業内容を複数設定している場合は、各事業内容ごとの完了時の実績を個別に記入してください。事業内容が4つ以上ある場合は、一つの事業内容ボックスに複数ご記載頂いて構いません。

■事業内容1

(1)助成契約書記載の事業内容(予定)

1 京都府京都市における「子ども第三の居場所」(C)学習・生活支援モデルの運営
 (1)期間:2022年4月～2023年3月(週3～4日、15時から20時まで開所)
 (2)場所:京都府京都市伏見区
 (3)対象:家庭や自身に課題を抱えた小学校低学年を中心に15名
 (4)内容:子どもとの1対1の関係を重視しながら、子どもたちの生活習慣形成や学ぶ意欲向上、体験の提供を支援することで社会的相続を補完する。語学や習字、季節のイベント等様々な体験活動を実施する

(2)事業完了時の事業内容(実績)

1 京都府京都市における「子ども第三の居場所」(C)学習・生活支援モデルの運営
 (1)期間:2022年7月～2023年3月(週3日、放課後から20時頃まで開所)
 (2)場所:京都府京都市伏見区
 (3)対象:家庭や自身に課題を抱えた小学校低学年を中心に15名まで
 (4)内容:子どもとの1対1の関係を重視しながら、子どもたちの生活習慣形成や学ぶ意欲向上、体験の提供を支援することで社会的相続を補完する。語学や習字、季節のイベント等様々な体験活動を実施する



(3)成功したこととその要因

学習・生活支援モデルの運営を開始することができました。地域の小学校や、児童相談所、関連行政窓口などに挨拶を行い、活動を認知していただくことができました。奔走して立ち上げを支援していただいたおかげです。

(4)失敗したこととその要因

ショートステイ事業との相乗効果を狙い、開所している週末での実施を検討していたが、「放課後」の居場所づくりとして、木曜日、金曜日、月曜日に曜日を変更いたしました。

(5)事業内容詳細

子どもがSOSや自身の興味を発信できる場ということを念頭に実施しました。その他語学や習字等の学びに加えて、ワークショップやお菓子作り、マジックショー、季節のイベントなど、オンライン等を活用して、多くの方に参画してもらい、機会を提供することを進めていました。実施したイベントとしては、SDGsに関わるワークショップや、工作教室などを行いました。

■事業内容2

(1)契約時の事業内容

(2)事業内容の実施(完了)状況



(3)成功したこととその要因

(4)失敗したこととその要因

(5)事業内容詳細

■事業内容3

(1)契約時の事業内容

(2)事業内容の実施(完了)状況



(3)成功したこととその要因

(4)失敗したこととその要因

(5)事業内容詳細

■事業内容4

(1)契約時の事業内容

(2)事業内容の実施(完了)状況



(3)成功したこととその要因

(4)失敗したこととその要因

(5)事業内容詳細

2 契約時事業目標の達成状況:

(1)助成契約書記載の目標

- ・令和4年4月6月頃までに「子ども第三の居場所」の本格運営を目指す。
- ・整備期間(令和4年4月～5月下旬)までに、
- ①関係各所(行政・児相・学校・地域・オンライン・その他)へ事業の主旨説明や地域の実態をより正確に把握するためのヒアリングを実施。②人材の採用③環境整備④学習支援等におけるプログラム開発、生活支援における支援体制の構築⑤より広く知らせてもらうためのチラシやHP等を整える。
- ・2023年3月の月次の実績として、1日あたり平均15名程度を目指す。
- ・継続的な活動にしていくためにも、ボランティアが定期的に参加できる状態を整える。
- ・子どもの「体験の不足」を解消するようなイベントを週1回程度実施する。
- ・類似の取り組みをしている団体、個人との交流の場をもち、より良い取り組みにしていく。
- ・保護者面談や保護者の方との交流の機会を月に1回程度設ける。
- ・必要に応じて、関連する支援機関とケースカンファレンスを設け、利用児童の一体的な支援方針のもと、支援する。

(2)目標の達成状況【700文字以内】

入力文字数	483	文字数チェック	OK
<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年4月6月頃までに「子ども第三の居場所」の本格運営を目指す。 →コロナウイルスの感染拡大の影響や、事業実施日の変更などから、令和4年7月の実施開始となった。 ・整備期間(令和4年4月～5月下旬)までに、①～⑤を整える。 →前述の通り、整備が令和4年6月頃に終了した。 ・2023年3月の月次の実績として、1日あたり平均15名程度を目指す。 →1日あたり平均5名の利用 ・継続的な活動にしていくためにも、ボランティアが定期的に参加できる状態を整える。 →募集は行っているが、参加は少ない ・子どもの「体験の不足」を解消するようなイベントを週1回程度実施する。 →頻度として、週1回程度の実施はできていない ・類似の取り組みをしている団体、個人との交流の場をもち、より良い取り組みにしていく。 →交流はできている。 			

※700文字を超えたら
文字数チェック欄に「700文字を超えています。700文字以内になるようご調整ください。」と表示され
入力のセルが赤色になるようにしています。

3.事業実施によって得られた成果

事業実施により、実施地域である京都市伏見区地域において子どもの居場所が存在しているという物的成果が得られた。ただし、これにあたっては、子どもの居場所が存在しているという認知をさらに広め、実際に利用人数を増やしていく必要がある。

量的成果としては、1月時点で、1日あたりの平均利用者人数が8名という成果が得られた。しかし、対象学校である稲荷小学校、砂川小学校、深草小学校の在籍児童数からすると利用人数は低く、これを従来の目的であった1日あたり平均15名の参加とするには2024年3月頃までに達成できることを目指す。

質的成果としては、子どもたちから「放課後の楽しい場所があって嬉しい。」親からは「放課後すぐに家に帰って来ずに、少しの間だけでも見守ってくれているのが嬉しい」といった声があった。

4.活動を通じて明らかになった新たな課題と対応案

活動を通じて明らかになった新たな課題は2点ある。

①子ども集め

利用を想定する児童は近隣の小学校に通う児童を想定している。職員体制の都合から、送迎支援などを行うことができないためである。近隣小学校へのチラシ配布を行おうと考えていたが、各学校の判断により、配布実施は難しかった。これに対する対応案として、近隣の子ども食堂にチラシの配架を依頼した。同様の「居場所事業」に参加する子どもたちに向けて、チラシを届けることで、参加者が増えたと見込まれる。

②ボランティア集め

想定したボランティア数よりも、参加したボランティア人数が少なかった。まずは、事業背景や、どのような実施をしているのかに関する発信が足りず、ボランティアを希望する方々の視点では、自分がどのような活動ができるのかを効果的に伝えることができていなかったためと考えられる。対応案として、近隣の大学のサークルや、ボランティアセンターなどを通して、事業内容の発信などを行った。今後も継続して行っていく。

5.事業成果物

(1)助成契約書記載の成果物名称

1. 実践報告会(個人情報に配慮した上で当団体ウェブサイト等への掲載やオンラインイベントで発信)
2. 月次予定のお知らせ及び交流イベント等のチラシ(A4版、300部×10ヶ月)、開催報告および写真(個人情報に配慮した上で当団体ウェブサイト等に掲載)
※10ヶ月=6月からの本格運営を想定して、6月～3月分
3. 個別のフィードバックシート(個別支援記録)※必要に応じて、ご家庭や関連機関に共有
4. 完了報告書

(2)事業完了時の成果物名称

1. 実践報告会実施
2. 月次予定のお知らせ及び交流イベント等のチラシ: 2700枚印刷
3. 完了報告書

(3)未作成となった要因

個別のフィードバックシートは、家庭との信頼関係を築くに至らず、個人情報の観点から未作成

(4)成果物を登録したウェブサイトのURL